

## 上田市営球場の思い出

宮澤憲一（10組）



65期ホームページの上原昇君（2組）のエッセイ＜上田城址公園野球場が野球聖地・名所150選に＞を読んで、あのボロ球場が？と驚いたが、その歴史故に選定されたことは同エッセイで知った。

筆者の実家は上田市木町（旧町名）にあり、上田城址に近く、小学生時代は格好の遊び場であった。城址内のお堀での釣りやスケート、プールでの水泳、加えて球場での野球観戦を楽しんだ。

昭和32年の上田松尾高校第一回甲子園出場前後は、同校は地元の誇る強豪校であり、小学校低学年のころから球場で応援した。

昭和32年のバッテリーは、今も語り継がれる神津進（56期）—倉島今朝徳（58期）で野球少年の憧れだった。剛腕神津に強肩・強打の倉島。倉島の本塁打は同球場で実際に見たことがある。

ある日、王貞治率いる早稲田実業と上田松尾の練習試合が同球場で開催され、胸躍らせて観戦に行った。王選手は投手として当時既に全国区のスターであり、球場は多数の観客で埋まった。先に王が投げた球は速かった。しかしその後投げた神津の速球もそれに劣らぬものだった。勝敗の結果は覚えていないが、両投手の投げ合いは印象に残っている。

当時の球場の設備は貧弱で、外堀も板製だった。ほとんどの試合は無料で観られたが、有料時は球場一塁側の外堀の下に一部だけ小さな秘密の隙間があり、小さな子供ならそこからもぐり込むことができ、時々タダで観戦させてもらった。（ごめんなさい）

プロ野球の試合もあったが、さすがにこの時は警備が厳しく例の隙間は使えなかった。

セ・リーグの中日の試合（対戦チームは忘れた）で江藤慎一選手（1937～2008）がいたのは覚えている。サイン帳は用意していたが、貰える機会は全く無かった。

いずれにしても、今回、野球聖地150選に選ばれたことは目出度いことであり、エッセイで知らせていただき感謝している。同球場の聖地に恥じめ発展と上田高校野球部の活躍を祈念する。

以上、上原君の関連投稿募集に応じ、幼き頃の思い出を記した。

（2022年9月9日記）